



おのみ



令和4年度 9月号
志布志市立尾野見小学校

「一致団結 流した汗が 金メダル」

校長 宗岡 克英

9月25日（日）に第76回秋季大運動会が実施されました。半日開催でしたがとても充実した運動会でした。印象に残ったシーンを紹介します。かけっこや短距離走で、走る前の呼名に対して子ども達は「ハイッ！」と手をあげ、大きな声で返事をしていました。子ども達一人ひとりの意気込みが伝わってきました。5年生のある組のレースはゴールするまで結果が分からない大接戦でした。ほんのわずかな差で逃げ切り、ゴールした子どもの「よっしゃあ！」という喜びの声が響き渡りました。レース後、一番を争った子ども達は、息が切れてお互い言葉が出てきません。肩で息をしながら等級旗の下に座り、とてもいい笑顔でお互い向き合っていました。その顔の表情からお互いの頑張りをたたえ合っていることがよく分かりました。着順より全力を尽くして走りきることが一番大切なことということ伝えてくれました。



1年生の「親子でなかよく」では、体全体を使ってフラフープを上手に回す子ども達が多く、とてもびっくりしました。フラフープを回す凜々しい顔が印象に残りました。いつもはあどけない1年生の意外な一面を見れた気がします。1・2年生の「玉入れ」では、去年、この競技を経験している2年生が1年生を上手にリードして最後のお手玉の後片付けまでしっかりと取り組むことができました。3・4年生の「台風の目」では、棒が自陣に戻って来たときに、みんなで声をかけ合い、息を合わせて棒を飛び越えていました。全員のチームワークが出ていました。5・

6年生の「竹取物語」では紅組・白組の双方の作戦を垣間見ることができまし。引きずられながらも必死で竹の棒にしがみつく姿は会場に感動を与えました。「大玉転がし」では、高学年の子ども達が玉を受け取る場所まで低学年の子どもたちの手を引き、誘導していました。低学年の子どもたちは安心して競技に参加できました。6年生の「親子で真剣勝負」では親御さんの工夫を凝らした作戦が会場を沸かせました。子どもたちは、親が全知力を使って走る姿を見て、親の深い愛情を感じることができたと思います。昨年から取り組んでいる「ソーラン節」。昨年にもまして今年は色とりどりののはっぴを着て力強く踊っていました。



その踊る姿を見て、自分も頑張ろうというエネルギーをもらうことができました。「松山音頭」は会場の方々に参加を呼びかけて踊りました。一緒に踊ることによって、地域の方々と一体となることができました。最後の「紅白対抗縦割り班リレー」は、学年があがるごとに力強い走りとなり、そしてバトンの受け渡しも上手になりとても見応えがありました。

今年の運動会のスローガンは「一致団結 流した汗が 金メダル」です。スローガンの通り全校で力を合わせ、一人ひとりが自分の力を出し切ることができました。そして、子ども達の流した汗の一粒一粒が、秋空に輝く太陽に照らされてキラキラと輝いていました。

子ども達は様々な場面でいろんな経験をすることによって大きく成長することができたと思います。運動会を実施するにあたり、保護者や地域の皆様からあたたかい御声援と御協力をいただきました。本当にありがとうございました。

